

令和 6 年 6 月 27 日現在

機関番号：32702

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2020～2022

課題番号：20H01472

研究課題名(和文) 東アジア秩序再編と統合の進展における日中ASEAN

研究課題名(英文) Japan, China and the ASEAN in the reconstruction of the East Asian new regional order and the advancement of integration

研究代表者

大庭 三枝 (Oba, Mie)

神奈川大学・法学部・教授

研究者番号：70313210

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,600,000円

研究成果の概要(和文)：2010年代から2020年代に入り大国間の戦略的競争が激化する中でも、ASEAN諸国は従来のバランス外交を維持している。また日本もこの時代、ルールベースの国際秩序をプロモーターとしての役割を強調する外交を展開した。すなわち、日本もASEAN諸国も、単なる大国・地域大国のフォロアーではなく、秩序のあり方地域秩序の変容の中で主体的なアクターとしての働きかけを行う姿勢を見せた。それらの動きが地域秩序のあり方を決定づけていると考えられる。また、ASEAN諸国内で「民主主義の後退」と言われる現象が見られたが、それは大国の働きかけよりもむしろ国内政治の文脈という内発的な動きと捉えるべきである。

研究成果の学術的意義や社会的意義

2010年代以降のASEAN諸国や日本の外交や国内政治、東アジアにおけるこれらの国々の経済アクターの動向に焦点を当て、大国の政府アクターの意思や決定のみで、地域秩序のあり方は決定づけられないこと、むしろミドルパワーや小国の政府および経済に関わる非政府アクターがどのように主体的に動くか、も地域秩序のあり方を大きく規定すること、よって「ミドルパワーや小国は大国の単なるフォロアーではないこと、政府アクターのみならず非政府アクターの動向を併せて考察する必要があること、などについて、いくつかの事例を得て、暫定的な結論に達したことが大きな成果である。

研究成果の概要(英文)：Even as strategic competition among major powers intensified in the 2010s and 2020s, ASEAN countries maintained their traditional balanced diplomacy. Japan also developed diplomacy during this period that emphasized its role as a promoter of a rules-based international order. In other words, both Japan and the ASEAN countries showed a posture of working as proactive actors in the transformation of the state of order and regional order, rather than as mere followers of the major powers and regional powers. It is believed that these developments are determining the nature of regional order. In addition, the phenomenon known as "the retreat of democracy" within the ASEAN countries was observed, but it should be seen as an internal movement, in the context of domestic politics, rather than the efforts of the major powers.

研究分野：国際政治学

キーワード：ミドルパワー・小国 地域秩序 ASEAN諸国 日本 国際秩序 非政府アクター 経済統合 インド太平洋

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

本研究を開始した当時、東アジア国際秩序の変容についての様々な議論が散発的に見られるようになっていたが、それらは米中といった大国の動向や行動、および米中関係のみに焦点を当てていく傾向が強かった。また英語圏（特にアメリカ）において中国脅威論的な見方を強める中で、ますます米中間対立によって地域の動向を説明する度合いは強まっていた。しかしそうした見方は、米中以外の ASEAN 諸国や日本の役割の重要性を軽視する傾向があること、それでは東アジア国際秩序の変容の実態を十分に把握することは出来ないと考えた。他方、小国外交についての研究は、例えば Archer, Bailes and Wivel eds., *Small States an International Security* (2014) や Jesse and Dreyer, *Small States in the International System* (2016) などが発表され、注目を集めつつあったが、欧州など他の地域の諸国を対象とした研究に比べ、アジア諸国を対象とした小国外交研究は手薄であった。本研究はそうした傾向に対し、あえて ASEAN 諸国の役割に特に重視しつつ、地域大国として限られたリソースのもとで新たな外交的活路を模索しようとする日本の役割についても明らかにしようとした。また、2010 年代からの東アジア秩序の急速な変化について包括的把握に関する研究は途上にあり、本研究の成果はそうした試みの先鞭の役割を果たすことが期待出来ると考えた。

2. 研究の目的

本研究は、2010 年代に入り顕在化した東アジア地域秩序の再編と、それに伴う地域統合の進展において、ASEAN 諸国を中心とする小国がどのような役割を果たしたか、を明らかにしようとするものである。2010 年代以降、東アジア地域秩序再編と地域統合の進展は（1）中国の台頭とその対外政策の活発化に伴うパワーバランスの変化、および（2）グローバル化の一層の進展の東アジアへの影響という二つの要因によって加速してきた。東アジア秩序再編や統合過程は、米中といった大国間関係を説明変数として論じられることが多いが、本研究はむしろ、こうした大国からの働きかけや国際社会のグローバルレベルでの変化に対し、ASEAN 諸国および日本がどのように対応したかが、この地域の秩序再編と統合のあり方に大きな影響を与えてきたという仮説に立つ。そして ASEAN 諸国の小国外交および日本の地域大国としての外交がこの秩序再編と統合過程にどう関与したかについても明らかにする。

さらにこの研究は、リベラル国際秩序の後退と東アジアの地域秩序変容がどのように関連しているかについても明らかにする。東アジアにおいても力による現状変更、米中経済競争に見られる経済的リベラリズムの後退、一部の ASEAN 諸国内での民主主義や人権保護に関する揺り戻しが起こっている。本研究は、ASEAN 諸国内の国内政治も視野に入れることで、地域秩序変容の内発的側面にも着目しつつ、東アジア地域秩序変容の実態把握をも目指す。

3. 研究の方法

この研究プロジェクトは、（1）ASEAN 諸国、日本などにおける聞き取り調査（各国の政府及び非政府アクターへのインタビューを行う）（2）各メンバーによる関係各国内の文書館、資料館等における一次資料、二次資料の収集と分析（3）定期的な研究会による論理的・実証的課題の検討、外部の研究者の招聘による知見の共有、およびそれに基づく聞き取り調査や資料収集の方向性の確定、といった三つの柱で進められた。ただ、（1）については、新型コロナウイルスの感染拡大による海外渡航の禁止及び禁止が解かれた後も様々な制限が課せられたことにより、研究計画通りに遂行することが困難となった。これは、本研究の繰り越し・延長に繋がった。（2）についても、特に 2020 年度から 2021 年度途中までは、国内における移動や調査も困難が伴い、これも本研究の繰り越し・延長せざるを得ない理由となった。よって本研究は特に（3）の定期的な研究会を、オンラインも活用しながら継続しつつ、メンバー個別の作業を進める、という形を取った。

こうした状況に見舞われつつ、本研究は、研究代表者が主導して、これらのメンバーによる研究結果を取りまとめながら、2010 年代後半以降の東アジア地域秩序再編と統合について、全員で研究会等を通じて理論的実証的な検証をしつつ、包括的な全体像を描き出すことに努めた。

研究メンバーはそれぞれの専門の観点から 2010 年代後半以降の東アジア地域秩序変容の実態把握に資する研究を進めた。

メンバー名	担当するテーマ
大庭三枝	研究総括、東アジア地域秩序再編と統合の理論的検討、日本と東アジア地域秩序の再編および統合
清水一史	東アジアにおける地域経済統合の実態と秩序再編
本名純	インドネシアと東アジア地域秩序再編および統合
川島真	中国と東アジア地域秩序再編および統合
青木まき	タイおよびメコン諸国と東アジア地域秩序再編および統合
鈴木早苗	マレーシアと東アジア地域秩序再編および統合、ASEAN の役割
高木祐輔	フィリピンと東アジア地域秩序再編および統合

4. 研究成果

本研究は、以下のことを明らかにすることを目指していた。

中国、日本、ASEAN 諸国の政府アクターの望ましい新たな東アジア地域秩序像はそれぞれ多様であること。その多様な認識とそれによる各国の実際の行動が交差する中で、新たな東アジア地域秩序が現出しつつあること。

アメリカ、中国といった大国、および日本という地域大国の安全保障・経済両面の政策や東アジアへの関与に対する ASEAN 諸国の政府アクター、非政府アクターの対応はそれぞれ多様であるが、全体として ASEAN は単なる大国・地域大国のフォロアーではなく、地域秩序の変容の中で主体的なアクターとしての働きかけを行う姿勢を見せていること。またその地域秩序変容への影響は無視できないこと。

日中 ASEAN 諸国の政府アクターによって進められる様々な政策と、東アジアを中心に見られる経済的相互依存、GVC の展開といった非政府アクター主導の地域経済統合をはじめとする経済的実態との関連とずれを明らかにすること。それにより、経済決定論によって地域情勢を把握することの単純さを明確にするとともに、経済と国際政治、国際秩序、地域秩序との関連についての洞察を行うこと。

前述した新型コロナウイルス感染拡大による海外渡航の禁止・制限により、海外における現地調査や聞き取り調査が予定通り行えなかったことで、研究活動の遅延を余儀なくされ、繰り越し制度を活用することで4年間この研究に従事した。そして予定よりはかなり縮減されたものの、海外における調査も行い、またメンバー個別の資料収集を含めた研究活動も一定程度進めることができた。

その結果、明らかにしようとしていた仮説に関し、以下のような考察を得た。

まず、この研究を推進する過程において急速に「インド太平洋」という地域概念が東アジア諸国において一般化した。中国は未だ好んで使わないが、それでも ASEAN が提示する包含的なインド太平洋概念は受け入れつつある。「インド太平洋」概念のあまりにも強い政治性には十分に注意を払う必要があるが、「東アジア秩序像」を探る、というアプローチ自体の見直しが必須であり、「インド太平洋」という地域設定をした上での秩序像を今後考えていくべきという結論に至った。

ちょうど研究期間に新型コロナウイルス感染拡大による各国の分断状況、さらにはミャンマーのクーデター（2021.2）ロシア・ウクライナ戦争（2022.2）ガザ危機（2023.10）といった政治的、および安全保障上の大きな紛争や危機に見舞われた。こうした動きの中で、西側先進国による自由民主体制と中国・ロシアに主導される権威主義体制というイデオロギー対立が世界を分断するかのような議論も展開されている。しかしながら、また日米欧の西側先進国側とも中国やロシアとも関係を維持し、どこか一方、または一国には寄らない ASEAN 諸国の多方向外交はむしろ国際秩序が不安定になる中でも維持されている。さらに ASEAN 諸国は意見や立場の対立を内包しつつ、ASEAN というまとまりを維持することで自立性を確保することの重要性を一層認識しているように見受けられる。政府アクターや非政府アクター双方の動きをそれぞれ見ても、全体として ASEAN は単なる大国・地域大国のフォロアーではなく、地域秩序の変容の中で主体的なアクターとしての働きかけを行う姿勢を見せていると見なすことはできると考える。

新型コロナウイルス感染による各国の人の移動の禁止により、一時的に地域統合やグローバル化とは真逆の動きが進むかに見えた。しかしそうしたなかでも ASEAN 諸国の政府および非政府アクターの動きを見てみると、経済の再活性化に向けた地域に広がるサプライチェーンの深化拡大への期待や関心は非常に大きかった。そしてアメリカや中国の経済安全保障を念頭に置いた輸出管理等の政策を懸念を持って注視しつつ、自由貿易体制の維持強化についての高い関心を見て取れる。今後の貿易や投資の動きを注視する必要はあるが、簡単にグローバル化や地域統合が後退しているとはいえないのではないかと。

ASEAN 諸国の国内の政治情勢の変化と地域秩序のあり方へのその影響、また米中対立の激化による地域秩序のあり方と各国内の政治情勢が関連する部分とそうでない部分について明らかにする道筋を一定程度つけることができた。すなわち、ASEAN 各国内部における選挙結果とも連動した政治対立、さらにタイやカンボジア、インドネシアなどに見られる民主主義の後退、といった現象は、主に各国内部の固有のこれまでの国内的文脈に起因している。他方、確かに中国は、民主主義の後退に関し、例えばデジタルを用いた強権的な統治手法、コロナ対策に名を借りた強権体制の強化、といったことのモデルを提示しているという側面がある。また若年層を中心とした民主化や民主主義への強い希求心は、欧米の民主主義モデルの規範的な影響力を示しているといえるかもしれない。しかしながら、すべてを外部の大国からの働きかけで説明するのは事実と合致しておらず、各国の内部における政治的・経済的・社会的経緯を踏まえ、国内政治と国際秩序との関連を考察すべきであるという結論を改めて得た。

本研究においては、中国への渡航も当初考えていた。しかし昨今の日中関係とそれに伴う中国滞在の日本人研究者やジャーナリスト、ビジネスパーソンを取り扱いの問題も表面化したことで、本研究メンバーの中国渡航を控えざるを得ず、中国側の地域秩序認識や対東南アジア諸国認識についての聞き取り調査を行うことができなかったことは非常に残念であった。ただ、それでも研究分担者による中国の秩序観についての優れた分析やその視点の提示は他のメンバーにとって非常に有用であった。また ASEAN 諸国というミドルパワー・小国が自立性確保や経済開

発・発展の実現を強く志向し、そのために政府アクター、非政府アクターそれぞれがとる行動が、秩序のあり方に大きく左右しているという点についてはタイやフィリピン、インドネシアなどの事例を掘り下げることによって今後いっそう明らかにしうる研究の道筋を作ることができた。

また、日本に関しては、2010年代以降一貫して、ルールベースの地域秩序のプロモーターとしての役割を打ち出そうとしており、単なる受け身の外交からの脱皮を図る動きが見られた。またそのため、西側諸国との距離をより縮めつつ、新興国や途上国との新たな協力関係構築に乗り出そうとしているものの、後者に関しては課題が多く山積していることが明らかになった。すなわち、台頭する中国を一層意識しそれへの対応を考える上で、アメリカとの同盟関係を一層強化し、かつ他の西側諸国や欧州諸国との関係強化を行うという路線は2010年代に進められ、2020年代に入りより状況が厳しくなる中で日本外交にとっての非常に重要な柱となっている。またインドのパートナーとしての重要性もより一層認識されつつある。他方、パワーバランスが水平的になり、これまでの政府開発援助等を用いたアプローチ以外での新興国や途上国との関係強化は、少なくとも政府レベルでは非常に限られたものとなりつつある。とはいえ、日本の経済アクターの東南アジア、インド太平洋への展開はこれまでの製造業中心のそれとは異なる位相も見せ始めており、今後の研究課題となろう。

「地域秩序」「国際秩序」において具体的にどのように中小国が存在感を示し、その影響力を行使しているかを見る場合、広義の「国際制度」「地域制度」の構築やそこでの協力・協議にどのように、またどの程度参画しているかという点が重要であるという視点に至った。その視点を踏まえ、この研究の継続として、インド太平洋地域においてASEANやAPECといった既存の組織に加え、その他ミニラテラルな制度も含めた様々な制度が設立、展開に日本やASEAN諸国の政府アクター、非政府アクターがどのように関わってきたのか、また関わりつつあるのかについて、特に2020年代以降に焦点を当てた研究を進める予定である。

本研究によって上記のような様々な考察を得たが、それを十分に成果物として発表されていないことは大いに反省している。よって、新たな研究の成果とも合わせ、学会発表やジャーナルへの投稿、書籍の出版等を通じての成果物の発表にも今後取り組む所存である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計25件（うち査読付論文 11件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 11件）

1. 著者名 大庭三枝	4. 巻 65 (6)
2. 論文標題 インド太平洋とQuad: 連携の進展の意味するもの	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 世界経済評論	6. 最初と最後の頁 6-16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 川島真	4. 巻 3 (3)
2. 論文標題 中央アジアの国々の安全保障観 中国の視点	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 安全保障研究	6. 最初と最後の頁 57-68
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Shin Kawashima	4. 巻 28(2)
2. 論文標題 Historical Policy of the Xi Jinping Administration: Four Histories and “Ma Project”	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Asia Pacific Review	6. 最初と最後の頁 1-25
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/13439006.2022.2026634	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 川島真	4. 巻 70
2. 論文標題 『和解』の観点から見た戦後日中・日台歴史問題 1945-2008	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 国際社会科学	6. 最初と最後の頁 1-25
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kazushi Shimizu	4. 巻 10(1)
2. 論文標題 The ASEAN Economic Community and the RCEP in the world economy	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Journal of Contemporary East Asia Studies	6. 最初と最後の頁 1-23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/24761028.2021.1907881	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 清水一史	4. 巻 121
2. 論文標題 変化を続ける世界経済下の ASEAN と RCEP 保護主義拡大下の東アジア経済統合	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 通商政策の新たな地平 【畠山襄追悼論叢】 ITI調査研究シリーズ	6. 最初と最後の頁 97-107
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 清水一史	4. 巻 130
2. 論文標題 保護主義とコロナ拡大下の ASEAN 経済統合と RCEP 発効 2021 年以降の新たな変化の下で	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 ITI調査研究シリーズ	6. 最初と最後の頁 29-51
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Sanae Suzuki	4. 巻 40(3)
2. 論文標題 Interfering via ASEAN? In the Case of Disaster Management, Journal of Current Southeast Asian Affairs	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Journal of Current Southeast Asian Affairs	6. 最初と最後の頁 400-417
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1177/186810342110168	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Sanae Suzuki	4. 巻 34(5)
2. 論文標題 Can ASEAN offer a useful model? Chairmanship in decision-making by consensus	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 The Pacific Review	6. 最初と最後の頁 697-723
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/09512748.2020.1727553	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 青木まき	4. 巻 71
2. 論文標題 ASEAN「民主主義問題」の複層性	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 外交	6. 最初と最後の頁 53-59
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高木佑輔	4. 巻 135(10)
2. 論文標題 東南アジア諸国の対中戦略と 日本への新たな期待 フィリピン、シンガポール、ベトナムの選択	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 中央公論	6. 最初と最後の頁 76-83
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高木佑輔	4. 巻 68
2. 論文標題 追悼ベニグノ・アキノ三世前大統領 法の支配を体現した指導者	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 外交	6. 最初と最後の頁 138-139
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大庭三枝	4. 巻 66, 4
2. 論文標題 日 東南アジア間の歴史認識を巡る諸相	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 アジア研究	6. 最初と最後の頁 58-87
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11479/asianstudies.66.4_68	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 川島真	4. 巻 22
2. 論文標題 現代中国政治の『強靱性(レジリエンス)』 胡錦濤・習近平政権への視座	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本比較政治学会年報	6. 最初と最後の頁 123-142
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kawashima, Shin	4. 巻 3, 3-4
2. 論文標題 Chinese and Taiwanese Perspectives on Japan's Racial Equality Proposal	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Japan Review	6. 最初と最後の頁 28-37
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kawashima, Shin	4. 巻 3, 3-4
2. 論文標題 China's Foreign Policy Objectives and Views on the International Order: Thoughts Based on Xi Jinping's Speech at the 19th National Congress	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Japan Review	6. 最初と最後の頁 54-63
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 清水一史	4. 巻 109
2. 論文標題 ASEAN 経済統合と自動車部品補完・生産ネットワーク-AECの深化とトヨタ自動車IMV並びにデンソーの例ー	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 調査研究シリーズ	6. 最初と最後の頁 1-23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Honna, Jun	4. 巻 18-15-5
2. 論文標題 Military Politics in Pandemic Indonesia	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 The Asia-Pacific Journal/Japan Focus	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 高木佑輔	4. 巻 134, 10
2. 論文標題 中国の海洋進出とインド太平洋地域秩序の行方 ベトナムとフィリピンを事例に	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 中央公論	6. 最初と最後の頁 128-141
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Takagi, Yusuke	4. 巻 57, 2
2. 論文標題 he nexus of nationalism and internationalism: the journey of a 'diplomat' after the galleons	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 The Philippine Review of Economics	6. 最初と最後の頁 49-63
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Aoki-Okabe, Maki	4. 巻 2, 1
2. 論文標題 COOPERATION WITH WHOM AND FOR WHAT?: JAPAN 'S MEKONG 48 DEVELOPMENT POLICY	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 JOURNAL OF GREATER MEKONG STUDIES	6. 最初と最後の頁 48-56
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 青木まき	4. 巻 180
2. 論文標題 米中対立と政治化するメコン川水資源管理問題	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 所報	6. 最初と最後の頁 607
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Suzuki, Sanae	4. 巻 27 (2)
2. 論文標題 Exploring the roles of the AU and ECOWAS in West African conflicts	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 South African Journal of International Affairs	6. 最初と最後の頁 173-191
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/10220461.2020.1767193	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Suzuki, Sanae	4. 巻 29 (4)
2. 論文標題 Increasing ownership for intervention in ECOWAS	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 African Security Review	6. 最初と最後の頁 364-375
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/10246029.2020.1843508	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鈴木早苗	4. 巻 -
2. 論文標題 ASEANを通じた内政干渉? 災害管理の事例から	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 IDEスクエア	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計27件 (うち招待講演 13件 / うち国際学会 9件)

1. 発表者名 Mie Oba
2. 発表標題 The divergent expectations for the CPTPP: What did the 11 negotiating countries anticipate?
3. 学会等名 International Political Science Association (IPSA) the 26th World Congress of Political Science (Zoom) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Shin Kawashima
2. 発表標題 How Strong is the Taiwan-US-Japan Triangle?
3. 学会等名 Ifri Center for Asian Studies Fall Webinar 2021 (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Shin Kawashima
2. 発表標題 Recent Sino-Japanese Relations and difficulties between them
3. 学会等名 「日本新政府発足以降の日・米・韓協力」韓国世宗研究所 (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 川島真
2. 発表標題 岸田政権の対中政策
3. 学会等名 ソウル大学日本研究所、ワークショップ「衆議院選挙と岸田政権（国際学会）」
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 川島真
2. 発表標題 探索“新時代”の中日関係：課題与展望
3. 学会等名 復旦大学日本研究中心第31届国際學術研討会（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Shin Kawashima
2. 発表標題 Recent Sino-Japanese Relations and difficulties for cooperation
3. 学会等名 Asia-China Dialogue 2021: Toward A Peaceful and Brighter Future, 現代中国学会、Seoul National University Northeast Asia Center（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 清水一史
2. 発表標題 保護主義とコロナ拡大下のASEAN経済統合とRCEP発効 2021年以降の新たな変化の下で
3. 学会等名 国際貿易投資研究所（ITI）アジアの国際経済環境の変化とASEANの対応研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 清水一史
2. 発表標題 RCEPの発効とその意義・課題
3. 学会等名 国際貿易投資研究所 (ITI) 国際貿易投資研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 清水一史
2. 発表標題 RCEPと東アジア経済統合：世界経済の変化の中で
3. 学会等名 アジア政経学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Jun Honnna
2. 発表標題 The Law and Politics of Military Callouts in Indonesia's Counterterrorism
3. 学会等名 Webinar on Military Domestic Engagement Focused on the Asia-Pacific Region, organized byPPSA and ISMLLW, sponsored by ERGOMAS (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Jun Honna
2. 発表標題 Japan's Maritime Non-traditional Security Cooperation in Southeast Asia
3. 学会等名 Asia-Pacific Conference 2021, Ritsumeikan Asia Pacific University (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Maki Aoki-Okabe
2. 発表標題 Thailand's Regional cooperation in 1960s
3. 学会等名 Conflicts, Geography, and Pax Americana in Cold War East Asia, Faculty of Asian and Middle Eastern Studies, Cambridge University (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 大庭三枝
2. 発表標題 新型コロナ危機下の米中対立激化と東南アジア
3. 学会等名 米中関係研究会、中曽根平和研究所主催ウェビナー講演会 (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Oba, Mie
2. 発表標題 The COVID-19 Pandemic and the Necessity of Multilateral Cooperation in East Asia
3. 学会等名 A U.S-China-Japan-ROK Quadilateral Videoconference, held by Forum on Asia-Pacific Security, The National Committee on American Foreign Policy (NCAFP) (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 大庭三枝
2. 発表標題 インド太平洋秩序の動揺と日ASEAN関係
3. 学会等名 グローバル・インテリジェンス・シリーズ、独立行政法人経済産業研究所主催ウェビナー講演 (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 大庭三枝
2. 発表標題 国際秩序の変容の中の東南アジア
3. 学会等名 経済団体連合会ASEAN研究会主催講演、経済団体連合会会議室（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Oba, Mie
2. 発表標題 Japan-U.S.-China: Japan 's Indo-Pacific Diplomacy
3. 学会等名 Virtual Mansfield Dialogue held by University of Montana（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 大庭三枝
2. 発表標題 新型コロナ危機下の ASEAN 協力
3. 学会等名 アジア政経学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Kawashima, Shin
2. 発表標題 China-DPRK Relations under/after corona pandemic
3. 学会等名 CAST and SIGNAL joint symposium on "Regional security as China 's presence grows in the Middle East ", CAST, University of Tokyo（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Kawashima, Shin
2. 発表標題 日中關係の現状与課題
3. 学会等名 International and Regional Situation and China-Japan Relations in the Post-epidemic Era-International and Regional Situation-China-Japan Relations, China-Japan Relations in the Post-epidemic Era, CIIS (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Kawashima, Shin
2. 発表標題 Japan's Diplomatic Policy for China under the Covid-19 Pandemic
3. 学会等名 NIICE International Conference on "Understanding CHINA", NIICE (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 川島真
2. 発表標題 新時代の中日關係:課題与展望
3. 学会等名 復旦大学日本研究中心第30届國際學術研討会 (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 清水一史
2. 発表標題 保護主義拡大下のASEAN 經濟統合と東アジア
3. 学会等名 アジア太平洋研究所 (APIR) 研究報告会 (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 清水一史
2. 発表標題 保護主義とコロナ拡大下のASEANと東アジア
3. 学会等名 国際貿易投資研究所 (ITI) 拡大する保護主義とASEAN統合研究会 (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 本名純
2. 発表標題 新型コロナ危機下のインドネシア：国内政治と外交の共鳴
3. 学会等名 アジア政経学会2020年秋季大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 本名純
2. 発表標題 コメント報告：ASEANの視点を交えて
3. 学会等名 グローバル・ガバナンス学会第13回研究大会 (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Suzuki, Sanae
2. 発表標題 Intervention and state strength-ASEAN and ECOWAS compared-
3. 学会等名 日本国際政治学会2020年度研究大会
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計15件

1. 著者名 川島真・益尾知佐子・渡辺恒雄・相澤伸広	4. 発行年 2021年
2. 出版社 中央国論ダイジェスト	5. 総ページ数 40
3. 書名 強権中国の野望	

1. 著者名 北岡伸一（編著）、大庭三枝、川島真、高木佑輔他	4. 発行年 2021年
2. 出版社 東洋経済新報社	5. 総ページ数 494
3. 書名 西太平洋連合のすすめー日本の「新しい地政学」	

1. 著者名 川島真、池内恵（編著）、本名純他	4. 発行年 2021年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 192
3. 書名 新興国から見るアフターコロナの時代：米中対立の間に広がる世界	

1. 著者名 石川幸一・馬田啓一・清水一史（編著）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 文真堂	5. 総ページ数 253
3. 書名 岐路に立つアジア経済 米中対立とコロナ禍への対応	

1. 著者名 足立研幾他（編）本名純（他）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 312
3. 書名 プライマリー国際関係学	

1. 著者名 吉沢誠一郎（監修）石川博樹、太田淳（編集）鈴木早苗他	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 378
3. 書名 論点・東洋史学	

1. 著者名 Lam, Peng Er and Purnendra Jain (eds), Oba, Mie and others	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Rowman& Littlefield	5. 総ページ数 376
3. 書名 Japan's foreign policy in the 21st century: continuity and change	

1. 著者名 田中明彦、川島真（編）、大庭三枝他	4. 発行年 2020年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 292
3. 書名 20世紀の東アジア史 I: 国際関係史概論	

1. 著者名 川島真・21世紀政策研究所（編著）他	4. 発行年 2020年
2. 出版社 勁草書房	5. 総ページ数 248
3. 書名 現代中国を読み解く三要素 経済・テクノロジー・国際関係	

1. 著者名 田中明彦・川島真（編著）、高木佑輔他	4. 発行年 2020年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 315
3. 書名 20世紀の東アジア史 各国史 [1] 東北アジア	

1. 著者名 田中明彦・川島真（編著）他	4. 発行年 2020年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 389
3. 書名 20世紀の東アジア史 各国史 [2] 東南アジア	

1. 著者名 川島真・森聡（編著）他	4. 発行年 2020年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 257
3. 書名 アフター・コロナ時代の米中関係と世界秩序	

1. 著者名 木村福成（編著）、清水一史他	4. 発行年 2020年
2. 出版社 文真堂	5. 総ページ数 198
3. 書名 これからの東アジア—保護主義の台頭とメガFTAs—	

1. 著者名 川中豪、川村晃一（編著）、青木まき他	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 376
3. 書名 教養の東南アジア現代史	

1. 著者名 青木まき（編）その他4名	4. 発行年 2020年
2. 出版社 アジア経済研究所	5. 総ページ数 122
3. 書名 タイ2019年総選挙：軍事政権の統括と新政権の展望	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	清水 一史 (Shimizu Kazushi) (80271625)	九州大学・経済学研究院・教授 (17102)	
研究分担者	本名 純 (Honna Jun) (10330010)	立命館大学・国際関係学部・教授 (34315)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	川島 真 (Kawashima Shin) (90301861)	東京大学・大学院総合文化研究科・教授 (12601)	
研究分担者	鈴木 早苗 (Suzuki Sanae) (30466073)	東京大学・大学院総合文化研究科・准教授 (12601)	
研究分担者	青木 まき (Aoki Maki) (90450535)	独立行政法人日本貿易振興機構アジア経済研究所・地域研究センター東南アジア I 研究グループ・研究グループ長代理 (82512)	
研究分担者	高木 佑輔 (Takagi Yusuke) (80741462)	政策研究大学院大学・政策研究科・准教授 (12703)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関